

命のしるし (第四回)

小俣麦穂



絵 長浜めぐみ

〈前号のあらすじ〉

娼婦に痣を隠す化粧を習ったエレは、人に優しく接してもらえないようになるが、ありのままの姿を受け入れてもらいたいと思う。痣を隠さずに生きるには同じ迫害される者たちが暮らす隠れ里しかないと思うエレ。そんな時、ツァーラアトという病を患った娘をもつ母親に出会う。病のためにこの母娘も迫害される者たちだった。エレの希望で三人は家を訪ねるが、そこで出会ったのは死病に侵され、すでに息を引きとった娘の骸だった。

4. 鱗ひび

熱を出したエレは、もうろうとしてうなされていた。まぶたに次々と浮かぶのは、憤怒の形相の男たち、イバラ模様のマント、狂気がゆらめく女の瞳、そしてダラリと力なく垂れ下がった、黒ずんだ腕らしきもの。耳には、怒